

夏休み経済教室 東京教室 1 日目の記録

日時 2026 年 8 月 18 日（火） 9 : 30～16 : 00

場所 慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール + オンライン同時配信（Zoom）

参加者 124 名（会場）、140 人（オンライン）、関係者を含む合計 264 名

主な内容：主催者（経済教育ネットワーク、株式会社東京証券取引所、慶應義塾大学商学部）挨拶のあと、塙の進行のもとで、以下の内容が展開された。

<1 コマ目> 講演「BASIC 株式会社と証券市場の関わり」と質疑

・斎藤文貴様（東証金融リテラシーサポート部課長）より、直接金融と間接金融、株式会社制度とその特徴、株主と企業のステークホルダー関係、株式投資の魅力とリスク・注意点、証券市場における発行市場・流通市場の違い、証券取引所の役割、投資部門別株式売買状況、株式保有比率、時価総額で見る構造変化、株価変動要因など多岐にわたる事項について、高等学校や大学での出張講義を踏まえて解説いただいた。

・質疑は、「なぜ企業は株式でなく、社債も発行する場合があるのか」、「発行市場で企業が資金調達する頻度はどうなっているのか」などがあり、講師が応答した。

<2 コマ目> 講演「A I 時代を生きる中高生を育てる先生方に伝えたいこと」と質疑

・安藤至大先生（日本大学経済学部教授）より、人手不足が変える私たちの働き方、A I とは何か、A I の危険性、先生が活用する、生徒とどう向き合うか、社会科として何を教えられるかについてご教示いただいた。

・教員の仕事も「無くならない」のではなく、タスク単位で考えると代替と補完の可能性がある、「この職業だから安泰」というものはないこと、また、A I とは何か、危険性を把握した上で、まずは先生が活用することの必要性について、実際に安藤先生が大学で講義している事例と絡めて紹介があった。（例：LLM のしくみ、プロンプトの不明瞭さを確認するための指示に関する添削アプリなど）

・質疑は「A I 時こそ育成すべき能力は何か」、「A I 時代の職業選択に関するアドバイス」など多岐に渡り、大学教員を含め、中高の先生方が歩みを止めず、動き続けることの意義を一貫してお伝えいただいた。

<3 コマ目> 講演「現在国際政治、経済の情勢を中高生にどう教えるか」と質疑

・鈴木一人先生（東京大学公共政策大学院教授・国際文化会館地経学研究所長）より、国際政治経済の基本、近代国家システムが生み出す矛盾、三つの相互依存の罫、経済安全保障とは何か、地経学的パワーの行使、トランプ時代の国際秩序、ホルムズ海峡の現状についてご教示いただいた。

・正しい世界観（大国優位ではない、グローバルなつながりで経済は動いている、国家は利益だけでなく、プライドや他国に対する優位性を得るためにも行動する）を持つために、歴史的な展開から、なぜ、今、このような世界になったのかロジカルに説明したり、印象に引きずられることなく、政治と経済の原理から説明したりすることの重要性をお伝えいただいた。

・質疑は、アメリカの石油価格や麻薬に関するものや「教科書に書かれている国際協調と現状の違いを生徒にどう伝えるか」などがあり、国際協調の枠組みは抑えながら、現実を抑えていく（リアリズム）ことの意義を解説いただいた。

<4 コマ目> 講演「〈多元的思考〉で激動の世界と A I 時代を生き抜く」と質疑

・渡邉雅子先生（名古屋大学名誉教授）より、A I 時代には一つの論理（形式論理）だけでは対応できない点、「多元的思考」が新しい経済・社会・教育の基盤となる点、日本の教育文化と経済には世界に発信できる強みがある点の 3 つのメッセージのもと、日米仏を中心に各国の思考表現の違いを四分割表（合理的行為の 4 類型）も含め、比較文化的に読み解く方法を解説いただいた。

・質疑は、発達段階に応じた論理的思考などがあり、目的に応じて論理を選び、価値を判断する力を育てることが、A I 時代の教育の課題であるという応答をいただいた。

・最後に、進行役の塙から簡単な総括があり、無事、盛会のうちに終了した。

補足：各報告者の所属は省略。プログラムを参照。資料を後日掲載予定（記録と文責：塙）